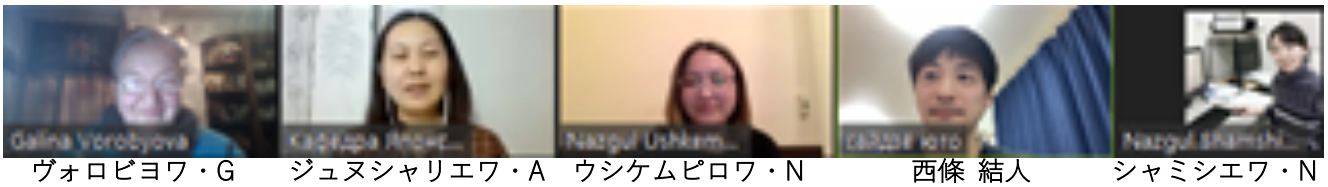
キルギス共和国日本語教師会会報
第 60 号 2021 年 5 月 22 日発行
Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 60 от 22.05.2021 г.

春のキルギス日本語教育セミナー2021

2021 年３月 14 日（土）オンラインで開催



ヴォロビヨワ・G（実行委員）　ジュヌシャリエワ・A（実行委員長）　ウシケムピロワ・N（実行委員）　西條 結人（第二部司会）　シャミシエワ・N（第一部司会）

◆3 月 14 日の「キルギス日本語教育セミナー2021」に実行委員のひとりとして参加しました。漢字指導法は、キルギスや中央アジア日本語教師にとって重要なテーマだと思い、セミナー講師として早稲田大学准教授でＪＳＬ漢字学習研究会代表の濱川祐紀代先生に講演を依頼しました。

◆準備の段階で、コロナ禍の状況における日本語教育事情、状況変化の影響、授業実施の特徴と問題点についてパネルディスカッションを行うことも意義があると考え、各国代表者による報告会の同時開催も提案しました。

◆実行委員会では、中央アジア各国とロシアのパネリストたちとの連絡、司会担当の四国大学の西條結人先生とオシュ国立大学のシャムシエワ・ナズグーリ先生とのオンライン会議、あれやこれや準備して臨みましたが、パネルディスカッションは教師会イベントとしては初めての経験で、無事に進行するかどうか正直言って準備中もとても心配でした。

◆教師会の会員メーリングリストで開催案内を配信するとともに、以前キルギスで活動していた先生方やキルギスの研究会で発表をしてくださったことがある先生方にもお知らせを送りました。さらに実力がＮ３以上の学生たちも招待しました。

◆いよいよセミナーの日、参加者は 45 人以上でした。招待に応えてウズベキスタン、タジキスタン、ロシアから参加してくれました。しかし、カザフスタンからの参加者がいなくてとても残念でした。

セミナーはとてもあたたかい雰囲気で、画面越しに久しぶりに懐かしい方々に会えて嬉しかったです。JICA ボランティア日本語教師だった高橋知也さん、三森優さん、川久保華代さん、入山美保さん、西條結人さんとも楽しくお話ができました。

◆第一部、濱川先生のご講演から貴重なヒントをいただいたという参加者が多かったと思います。第二部のウズベキスタン、タジキスタン、ロシア、キルギス代表パネリストの発表も興味深いものでした。キルギスからはキルギス国立総合大学、キルギス国立大学付属日本学院、ビシケク国立大学が報告しました。教員と学生にアンケート調査を実施した結果をわかりやすくグラフで提示し、参加者から次々と質問がありました。雰囲気はとても友好的でブレイクアウトルームのときは漢字指導の工夫について話しました。セミナーが終わってもみな別れがたかったのか、日本語教育井戸端会議がしばらく続いていました。

◆参加希望者のうち 5 人への Zoom 会議へのお知らせが迷惑メールになってしまい、セミナーに参加できなかったのは本当に残念です。5 人にはセミナー後、濱川先生の講演とパネリストの発表の PPT をお届けし、高く評価してもらいましたが、同様のことのないように対策を講じるのが次回以降の課題と言えます。また、キルギス日本語教師会の参加者が少なかったことは実行委員の一人としてとても残念でした。

◆濱川先生、発表者の皆さん、また、実行委員会のジュヌシャリエワ・アセーリ委員長、ウシケムピロワ・ナズグーリ委員、司会を務めてくださった西條結人先生とシャムシエワ・ナズグーリ先生にお礼を申し上げます。一緒に活動に参加できて楽しかったです。

◆今年はキルギスで日本語教育がスタートして 30 年です。8 月に予定されている 30 周年記念国際研究大会の成功を祈りたいです。

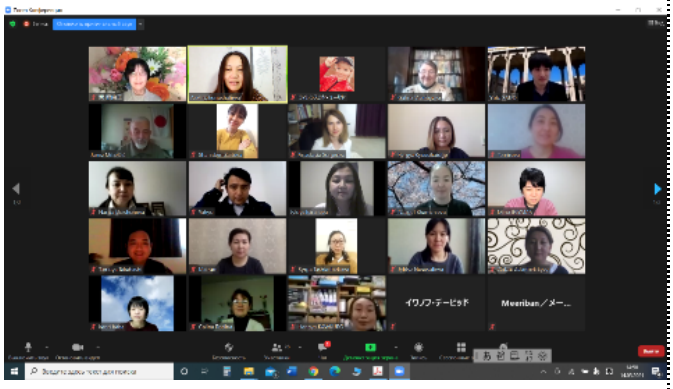
ヴォロビヨワ　ガリーナ（PhD）

講 演
「漢字指導・学習の方法ーバリエーションはどのくらい？ー」

濱川 祐紀代
早稲田大学日本語教育研究センター／准教授

◇2021 年 3 月 14 日（日），キルギス日本語教育セミナーで漢字教育に関する講演をさせていただきました。テーマは漢字指導や漢字学習のバリエーションについてです。今回はそのご報告をさせていただきます。

まず，申込の時点で，キルギスの先生方がどのよ



うに漢字を教えているのか，漢字をどう思っているのかについて事前アンケートを行いました。その結果，①キルギスの先生方は「漢字が読めるようになること」に注目していて，「音読み・訓読みを同時に覚えさせる」指導法を取っている人が多いこと，②「正確な筆順が重要だ」「書くことが重要だ」と思っている人が多いことがわかりました。

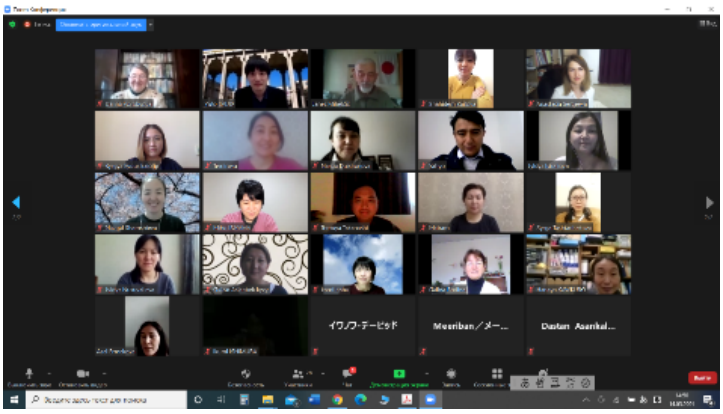
わたしが以前行った調査（非漢字系・多国籍の学習者を対象）で，学習者は先生に「漢字の学習方法の選択肢を広げるような指導をしてほしい」「覚えた漢字をいつどこで使えばいいのか教えてほしい」と言っていました。このような要望に対して，教師は何ができるでしょうか。

漢字には「字形・読み・意味・用法」の４つの側面があります。漢字指導の多くが「字形や読み」だったとしたら，意味や用法に着目した指導方法を検討してみるのはどうでしょうか。例えば，漢字を使う場面を思い浮かべてみましょう。

カラオケのリモコンや料金表にはどのような漢字やことばが表示されているでしょうか。インターネットで画像検索をすればすぐに確認することができますよね。また逆に，今日習った漢字を使って会話を考えてみようという活動も考えられますね。「どこで使うのか」「どのように使うのか」という場面や用法に着目した学習方法は，なかなか学習者一人ではできません。先生や友達と一緒だからできる学習方法なのではないかと思います。このように，講演の中では他にもさまざまな指導方法の例を提案いたしました。キルギスでも実現可能な方法がいくつか見つかったでしょうか。

今回都合が悪くて参加できなかった方がいると伺いましたし，参加したけれどもっと具体的に知りたいという人もいるかもしれませんね。漢字指導のバリエーションについて知りたい人はぜひ少人数でセミナーをしましょう。zoom などを使って楽しく充実した時間が過ごせたらと思っています。お気軽にご連絡ください。

e-mail:yukiyo_hamakawa[a]aoni.waseda.jp
（＊[a]を変換してください）



最後に，漢字教育に興味・関心がある方は，①『日本語教師のための実践・漢字指導』（濱川祐紀代編著），②JSL 漢字学習研究会（http://jsl-kanji.com/）をご覧いただければ幸いです。

キルギス日本語教育セミナー実施報告

◆2021 年 3 月 14 日、キルギス共和国日本語教師会主催（国際交流基金助成事業）の「キルギス日本語教育セミナー2021」では，早稲田大学日本語教育研究センターの濱川祐紀代先生に「漢字指導・学習の方法 - バリエーションはどのくらい？ - 」というテーマでご講演いただいた。

◆報告者と濱川先生とは 7 年前に国際交流基金の研修で長期日本語教師研修を受けていた時に知り合った。濱川先生が報告者の担当教師で，教授経験が浅い報告者に日本語の教え方，主な教授法などについて丁寧に教えてくださったという間柄であった。

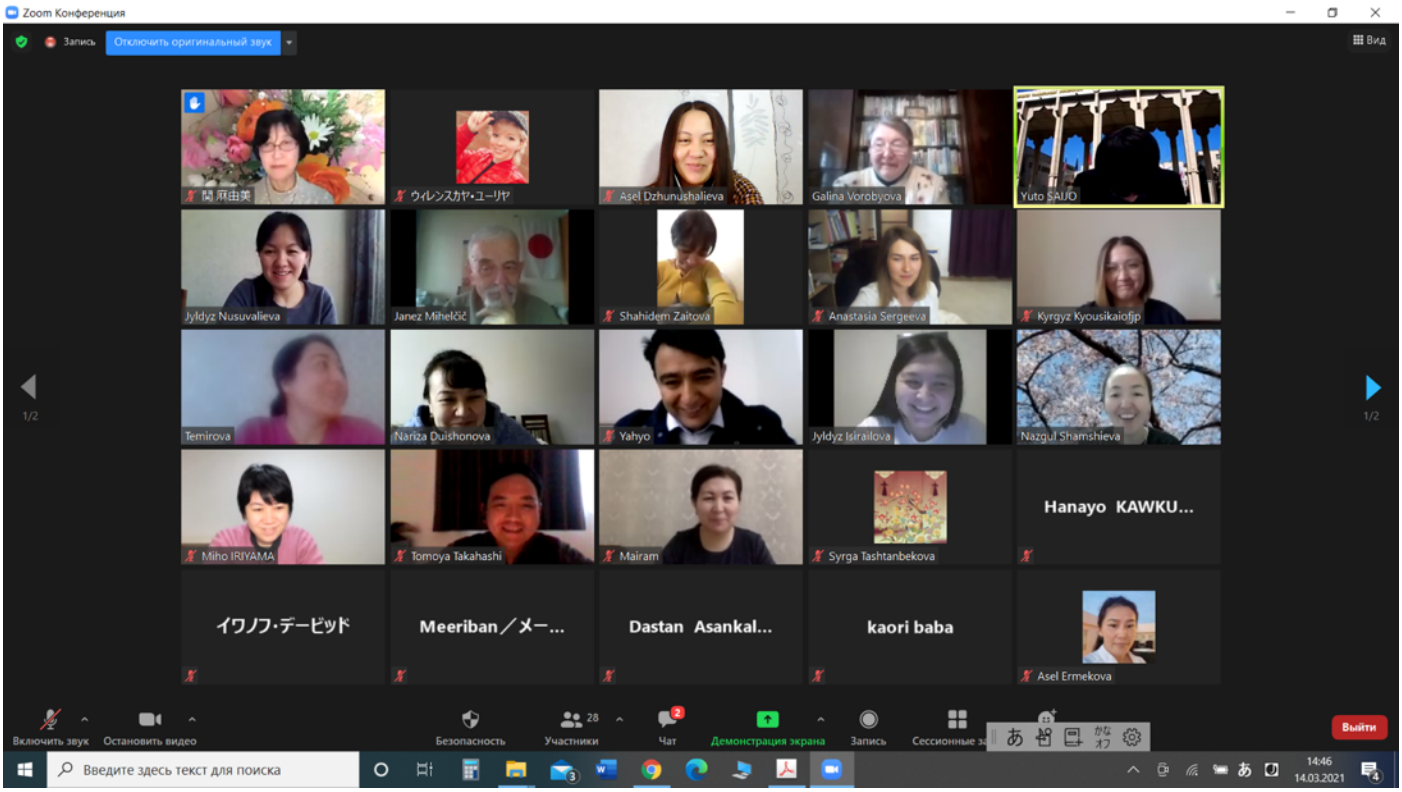
◆今回，濱川先生がキルギスの日本語教師のために素晴らしい講演をしてくださって，感謝している。キルギスの日本語教師は，漢字の教授法を学んだり，漢字そのものや漢字の教育方法を研究したりしている教師が少ないのが現状である。濱川先生のご講演が良い機会となり，キルギスの日本語教師が自分自身のため役に立つものであると感じ，学んだことを日頃の授業で実践してみようという気持ちになったとしたら，実行委員として企画・実施に携わった立場としてこれ以上嬉しいことはない。

◆セミナーの参加者からは，ワークショップから自分のために新しい知識，これまで知らなかった漢字の教え方について多くの知識を得ることができたというコメントがあった。

◆濱川先生のご講演の後は，第 2 部としてパネルディスカッション「CIS 各国のオンライン教育事情」のテーマで，ウズベキスタン，タジキスタン，ロシア，キルギスの代表者に発表をしていただいた。

◆パンデミックで世界中の教育システムが変化を強いられ，ポストコロナ時代を見据えた社会社会の中における教育の在り方や，その時代を生きていける人材を養成するために何が必要か検討することも重要であると思われる。

報告者：ジュヌシャリエワ・アセーリ
「キルギス日本語教育セミナー2021」実行委員長
（ビシケク国立大学）



キルギス日本語教育セミナー2021
参加者より①

＝漢字教育の最前線＝

高橋 知也
ブルガリア共和国
ソフィア大学客員講師

◆昨年８月の「キルギス日本語教育セミナー2020」に引き続き、今回の「キルギス日本語教育セミナー2021」にも参加させていただき、ありがとうございました。

◆前回も今回も漢字教育の第一線で活躍している先生方に教えていただくことができて、自分の受け持っている授業における漢字の扱いについて振り返る機会となりました。

◆今教えている学生と漢字との距離感が知りたいと思い、濱川先生の調査と同様の質問をしてセミナーの翌日の授業で学生たち（3 年生 12 人）に漢字が好きかどうか聞いてみました。結果は表の通りで、漢字が好きな割合が80%以上の学生と60%以下の学生とで半分ずつでした。日本語の学習を続けていくうえで漢字との上手な付き合い方は欠かせません。

表 漢字が好き？

好き (%)	嫌い (%)	人数
100	0	1
90	10	1
80	20	4
70	30	0
60	40	2
50	50	3
40	60	0
30	70	1

◆漢字嫌いの学生たちがどうすれば苦手意識を克服できるか、紹介していただいた教え方を活用して、いろいろ工夫してみたいと思いました。

＊＊＊＊＊＊＊

◆3 月 14 日にキルギス日本語教育セミナー2021 が行われました。今回はパンデミックのためオンラインの形で、キルギズ、日本、ロシア、ウズベキスタン、タジキスタンからの先生方が参加しました。

◆セミナーの第一部は漢字指導と学習の方法についての講演で、後は 4 人ずつになって、グループチャットでディスカッションもありました。第一部を通じて、漢字を教えるとき、日本語の教師として身に付けるべき漢字指導や学習方法に関するストラテジーを学ぶことができました。それにキルギズでどのように教えているのかについてもお互いに質問したり、意見交換したりすることなど、非常に得るものが多いセミナーでした。

◆セミナーで印象に残っているのは、第二部でした。オンライン教育事情についてロシア、タジキスタン、キルギズの報告を聞いて、ウズベキスタンと似ているところと違っているところが何かが分かりました。ウズベキスタンの大学もキルギズの大学も新型コロナウイルス感染防止対策としてオンライン授業を始め、学生は手で書くことがなくなり、宿題等はパソコンに直接打ち込んで提出したり、漢字や文字を書く機会が極端に少なくなってしまいました。

◆また、コロナ以前よりは、日本語を読んだり聞いたりする機会は増えましたが、その反面、読んだ内容を正しく理解しているかどうかの判断や評価が難しくなりました。

テミロヴァ・ムスリマ
ウズベキスタン国立世界言語大学講師

◆さらに、教師と学生、そして学生同士でのコミュニケーションの機会が少なくなりました。そしてキルギズ側がオンライン授業について日本語を学習している大学生に対してアンケート調査の結果もシェアしました。

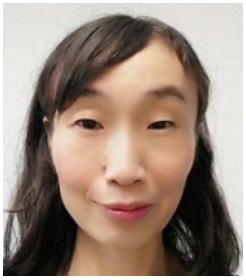
◆オンラインのメリットとして、授業準備のために時間がたくさん取れることや大学まで行く必要がなく時間と空間の制約がなくなったこと、ZOOM などでは PPT の共有も可能なこと、また教師と学生に都合がいい時間に授業ができることなどがあげられました。

◆反面、オンライン授業中、インターネット接続の悪化、停電、講演者とフェイストゥフェイスで会えないこと、質問したり意見を言う時間の制約、参加者数の制約などの問題も見えてきました。

◆セミナーで講師の方や他の参加者からもらったアドバイスを意識し、漢字指導と学習方法のスキルを習うとともに、これから授業中も使っていきたいと考えています。また今回のようなセミナーがこれからも頻繁に実施されるよう期待しています。

キルギス日本語教育セミナー2021
参加者より②

◆この度は、キルギス日本語教育セミナーに出席させていただきましてありがとうございました。私は2012 年から2年間 JOCV としてキルギス日本語教師会の活動にも参加させていただき、今回は帰国後、初めてセミナー出席となりました。
◆当時から各機関の先生方が熱心に授業や教師会活動に取り組まれ、向上心が厚い団体であると感じていましたが、今回のセミナーにおいても、教師だけでなく学生も参加し積極的に意見を述べる姿を拝し、それが今も継続されておりとても嬉しく思っております。濱川先生のご講演では、学習者は漢字の学習法を知りたいと思っているため、教師はそれに応える必要があるということを教えて頂きました。キルギスでは新しい教育機関も設立されており、従来の学習者に加え、就労を目的とした新たな学習者層が生まれています。
◆日本においても学習者の多様化が進んでいます。そのような中、漢字学習は依然重要であり、濱川先生からは多様化する学習者のニーズに応えることができる活動を数多くご提示頂き、すぐにでも教室活動に取り入れたいと思っております。



◆後半には、コロナ禍で学生の学びを止めないために、インターネットの使用環境が十分とは言えない状況下、各国の先生方が創意工夫し、遠隔授業が行われている状況を詳しく知ることができました。また、それに対しての課題も把握し、改善しようとされていることがとても印象に残りました。新型コロナの収束は未だ見通しが立たず、いろんな形で遠隔授業を取り入れていく必要があるため、今回のセミナーで共有していただいた皆様のご経験を日々の教育活動に取り入れていきたいと思っております。
◆今回は、オンラインで開催されたため、参加が可能になりました。懐かしい先生方にお会いでき、その先生方がキルギス日本語教師会の牽引役として活躍され、キルギスの日本語教育の発展に貢献されている御様子が伺えたことは大きな喜びでした。今後もキルギス日本語教師会のご活動を期待しております。

川久保 華世（相模国際学院/主任教員）

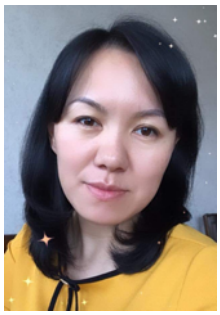
◆「１７」この数字は何を表しているでしょう、というクイズから始まった第 1 部の濱川先生の講義は、漢字教育にとどまらず、いろいろな授業でも応用できるアイディアいっぱいのお話でした。教師として、いろいろな教え方の引き出しを持っておくことは大切だなあ、日々精進しなくてはと思いました。
◆第２部のウズベキスタン、ロシア、タジキスタン、キルギスの先生方によるパネルディスカッションでは、コロナ禍での各国の事情の報告がされました。コロナウィルスの影響はほとんどなく、オンライン授業も行われていないというタジキスタンにおいても、コロナウィルスの影響で留学できなくなった学生さんもいるとのこと。多かれ少なかれ、どこでも何かしらの影響のもとに、先生方が工夫して取り組んでいらっしゃる様子がわかりました。
◆また、日本の大学との交流を持たれている機関もありました。コロナ対策としてオンラインが普及しましたが、今後、オンラインという形で、日本の大学をはじめとする教育機関で日本語教育を学ぶ日本人学生や、日本語を学んでいる留学生とも繋がれるような仕組みができたら、お互いに学び合い続けることができるのだけれど、と、そのようなことを考えました。
◆セミナーや研究大会に参加させていただいていつも思うのは、参加されている先生方の日本語力が高いことです。発表などもほとんど日本語で行われます。
◆運営されている先生方の方針で、日本語のブラッシュアップのために、こうした機会を作っていらっしゃるのだと思いますが、素晴らしいなと頭の下がる思いです。先生方を見倣って、やはり日々私も精進しなくてはと、ここでも思いを新たにしました。いつも刺激を与えてくれるセミナーを企画してくださる教師会のみなさまに感謝いたします。

関麻由美
津田塾大学非常勤講師

キルギス日本語教育セミナー2021
参加者より③

◆「日本語の文字は？」と聞けば、「ひらがな・カタカナと漢字だ」と誰でも答えられる。一見すると、漢字はきれいで面白いものに思えますが、学び始めると思ったより面白くないとか簡単ではないと感じる学習者が少なくありません。現に、漢字が嫌だ！漢字が書けない！興味ない！などの苦手意識を持つ学習者は後をたちません。もちろん、それを克服するためには、指導法や学習法が大切でしょう。最近では、漢字を面白く簡単に覚えるための様々なアプリがあって、漢字の学習がより簡単になったと言われています。そのアプリは、書き順や意味なども調べられるため、漢字がきらいな学習者に勧めたい非常に便利なものだと思います。また、そのようなアプリに加えて、教師による漢字指導も重要です。漢字学習に興味を持たせるのは教師の役割の一つで、漢字を通して日本語をもっと面白く教えるのも教師の役割だと考えられます。
◆3 月 14 日に開催された「キルギス春季日本語教育セミナー」は、講演とディスカッションで構成されていました。早稲田大学日本語教育研究センター准教授の濱川祐紀代先生が「漢字指導・学習の方法」という本当に興味深いお話をしてくださいました。日本語非母語話者、特に海外で日本語を教えている教師に漢字学習法と指導について、コメントしてくださり、助けてくれたことが非常にありがたく感じました。
◆日本語の教え方に興味を持っている非母語話者には、支えと協力が重要で教師が互いに教え合い自分の能力を伸ばしたり、レベルアップするのが大切です。

ビシケク国立大学上級講師
ヌスワリエワ・ジルディズ



日本人の専門家からのアドバイスなどが非母語話者の日本語教師にとって必要となっているのは当然だと思います。その点で、濱川先生の講演は、先生がやってきた今までの漢字指導と学習法に関する調査について詳しい話があって、よかったと思います。
◆濱川先生は、2021 年 2 月～3 月にかけて、キルギスの日本語教師に対して（18 名）漢字指導に関する Google フォームを利用したオンラインアンケート調査を行いました。その調査の結果は、講演の最初にまとめられ、他の国々の教師の調査結果と比較されたところが面白かったです。
◆先生の調査結果によると、キルギスの日本語教師は漢字指導では、漢字の音読みと訓読みを同時に覚えさせたり、漢字の書き順にも注目させたりすることが多いようです。学習者は、まじめに学習を続ける一方で、自律的な態度はあまり感じられず、先生の考えでは、キルギスでの漢字指導は他の国々と比較すると、大きな違いがあるそうです。それは、キルギスの文化や国の多民族性や興味などの強さによると考えられます。
◆今回の講演で得た知識が少しでも、これからの漢字学習法と指導法にいい影響を与えることを期待しています。

ビシケク国立大学
東洋学国際関係学部４年
アットクロワ・メーリバン

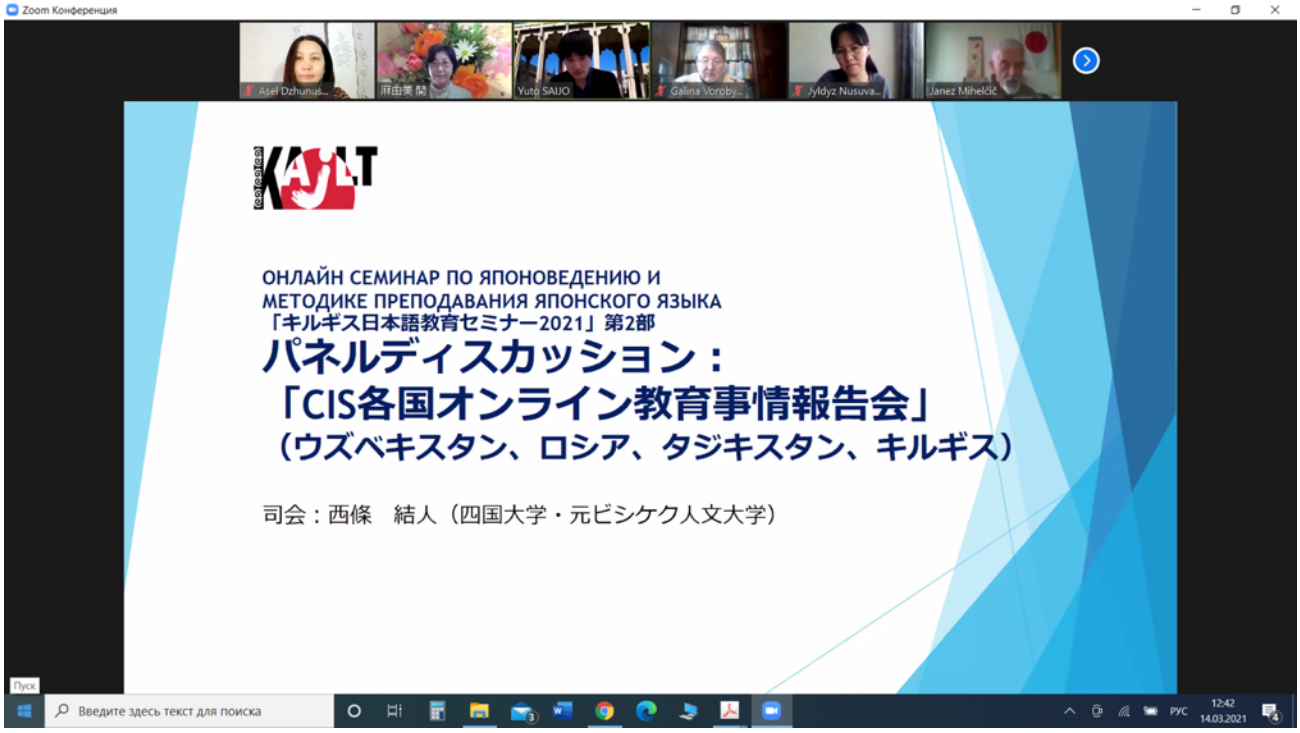
◆今回のキルギス日本語教育セミナーは、以前私が参加した研究会と違ってオンラインで開催されました。セミナーの少し前にガリーナ先生にイベントの詳細を教えていただき、ぜひ参加してみたいと思いました。
◆今年も全ての発表内容が興味深くて、大変勉強になりました。私が特に惹かれたのは、漢字指導・学習方法に関する濱川先生の講義でした。濱川先生が紹介してくださった漢字の学習方法は意外と多く、これから使ってみたいいくつかの漢字の学習方法もありました。先生のお話を聞いて、漢字指導方法の大切さもわかりました。漢字の勉強を様々な指導方法を使い楽しくやれば、学生も漢字のことが好きになるに違いないと考えます。
◆そして、各国のオンライン教育事情をテーマとしたパネルディスカッションも大変興味深かったです。特にウズベキスタンについての発表は面白かったです。今年はずっとオンラインで教育を受けている国立大学の学生たちは授業料の半分程を払い、Wi-Fi も無料になるという話を聞いて、驚きました。将来の教育はどんな形になるかわかりませんが、キルギスにおけるオンライン教育もメリットのたくさんある教育になってほしいなと思いました。
◆今回のセミナーに参加できて、嬉しい限りでした。参加者の皆さんに対面で会いたいという気持ちが強いですが、このようなオンラインイベントのおかげで繋がれるのはとても素敵なことだと思います。

キルギス日本語教育セミナー2021　第２部
パネルディスカッション「CIS 各国オンライン教育事情報告会」

西條　結人（四国大学・元ビシケク人文大学）

◆第 2 部のパネルディスカッション「CIS 各国オンライン教育事情報告会」では、ウズベキスタン、タジキスタン、ロシア、キルギス 4 か国の大学教員による教育事情やオンライン教育に関する報告が行われました。

◆最初のウズベキスタン国立世界言語大学のテミロヴァ・ムスリマ先生からはウズベキスタンのオンライン教育の方法や対面と遠隔授業の比較をご報告いただきました。2 番目のモスクワ市立大学のセルゲエワ・アナスタシア先生からは本セミナーの第 1 部の講演のテーマであったオンラインでの漢字教育・漢字指導を中心にモスクワ市立大学での取り組みについてご発表くださいました。3 番目のタジキスタン国立言語大学のイスロモフ・ヤヒヨ先生は、タジキスタンにおける日本語教育事情全般と、対面授業の様子をご報告いただきました。4 番目のキルギス国立総合大学のドゥイショノワ　・ナリーザと 5 番目のビシケク国立大学のヌスワリエワ・ジルディズ先生、6 番目のキルギス国立大学附属日本学院イシライロワ・ジルディズ先生からは所属機関の日本語学習者、日本語教師を対象にしたアンケート結果の報告が行われました。



報告が行われた 4 か国の教育事情を振り返ると、日本とは異なるコロナ禍における教育環境・オンライン教育事情があり、非常に興味深い発表ばかりでした。新型コロナウイルスの影響で教育の在り方がコロナ前と大きく変化せざるを得ない状況の中で、目の前の学習者のために教育の機会、教育の質を保証しようとする各国の先生方の取り組みを拝聴し、私自身の日頃の実践や研究への刺激をいただきました。

最後になりましたが、第 2 部パネルディスカッションにご登壇いただいたパネリストの先生方、司会担当の機会をくださり、本企画・運営をサポートしてくださったキルギス共和国日本語教師会の先生方に感謝申し上げます。コロナウイルス収束後には、パネリストの先生方、キルギス日本語教師会の先生方に対面でお会いできることを楽しみにしております。

外国の研究大会に参加して

ヴォロビヨワ・ガリーナ、PhD

■最近オンライン方式で実行される研究会が多くなり、コロナ禍のせいでどこへも行けなくなっても様々な国で開催される催しに参加したり発表したりする可能性が急激に増えてきました。それで私は3 月に2つの外国の国際研究大会で発表をしました。それはロシアで 3 月 11～13 日に開催された研究大会とブラジルで 3 月 17～19 日に開催された研究大会でした。

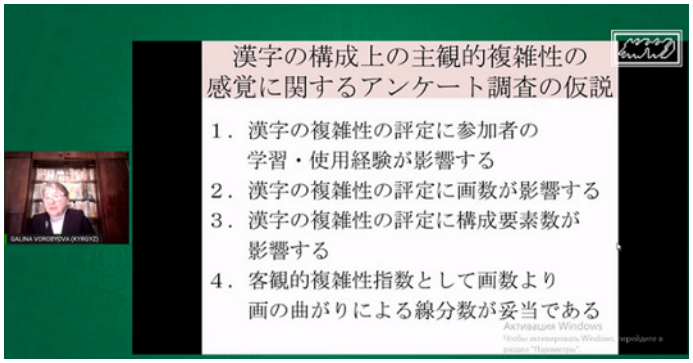
■モスクワ市立大学とロシア CIS 日本語教師会が実施した第3回国際学術学会「教育現場における日本語」は Microsoft Teams というコラボレーションプラットフォームで開催されました。参加者は 200 人以上でした。

■ロシア語と日本語での基調講演、ワークショップと発表がありました。同時に2つの発表のセッションが行われました。今回はロシア、日本、ブルガリアとキルギスの発表者がいましたが、残念なことに他の CIS 諸国からの発表者がいませんでした。キルギスから私以外にビシケク国立大学のヌスワリエワ・ジュルディズ先生が発表をしました。そしてキルギス日本語教師会の賛助会員である津田塾大学の関麻由美先生も発表をしました。Microsoft Teams をそこまで使ったことがなかったので予め実行委員の指導で練習をしました。発表時間は 15 分、質疑応答の時間は 5 分でとても短く感じました。20 分+10 分の形に慣れているので 15 分では発表の内容を十分に伝えられないように思いました。

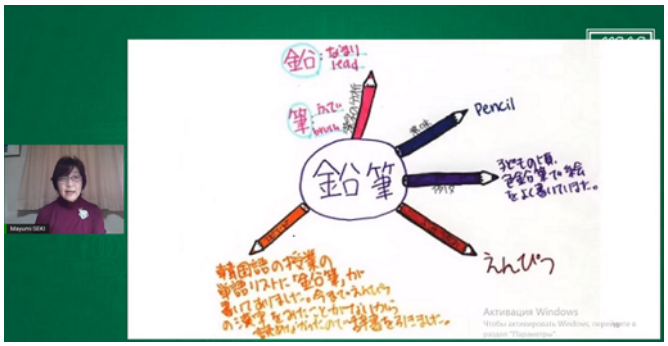
■発表が多くて、全部聞くことができませんでしたが、興味深かったのはロシア科学アカデミーのアルパートフ・ヴォラディーミル教授の基調講演「ロシアにおける日本研究史」、モスクワ市立大学のミズグリナ・マリア先生の「日本語の聴解指導における確率的予測能力の育成」やイルクーツク市第 26 番学校のダヴィドワ・アレフティーナ先生の「創造的な教師向けの革新的教育技術としてのラップブックー中等教育学校の日本語授業を例としてー」というテーマの発表でした。実行委員会の皆様、ありがとうございます。

■第13回ブラジル日本研究国際学会｜第 26 回全伯日本語・日本文学・日本文化大学教師学会「日本研究における新しいパラダイムの統合と構築」（主催：ブラジル日本研究協会）は、複数のプラットフォームで同時配信ができるライブ配信ツール StreamYard で行われました。大会の言語はポルトガル語と日本語でした。

■実行委員の Alice Tamie Joko 先生が研究大会発表募集のお知らせをしてくださったおかげで私は発表を申し込むことができました。応募者の競争率が高かったそうですが、採用してもらって私は発表ができました。発表のテーマは「漢字の構成上の複雑性の分析」でした。



■津田塾大学の関麻由美先生も、「ビジュアル・ストーリーテリングとしての漢字マップ―漢字学習を楽しく創造的に―」をテーマに発表をすることができました。StreamYard に不慣れなため大会の 2 週間前に実行委員の指導で練習をしました。



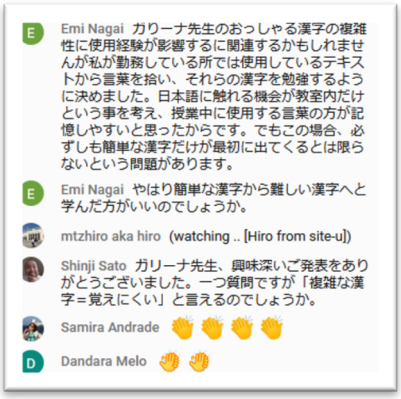
■ブラジルは地球の西半球に位置しているので、日本との時差は 12 時間、キルギスとの時差は 7 時間です。「もし私の発表が夜中 2 時とか、3 時とかになったらどうしよう」と心配していましたが、おかげさまでキルギス時間の午後 7 時になって、ほっとしました。

■大規模な研究大会で、ブラジル、日本、マレーシア、キルギスなどの国々の発表者がいました。同時に 3 チャンネルで発表のセッションが行われました。事前登録をしたのは発表者だけで、一般の人は誰でも自由に世界中どこからでも YouTube でリアルタイムで見ることができました。今も、大会のプログラム、更に全ての講演、パンルディスカッション、研究発表のビデオを次の URL で見ることができます。
https://doity.com.br/ciejb2020/blog/Nihongo

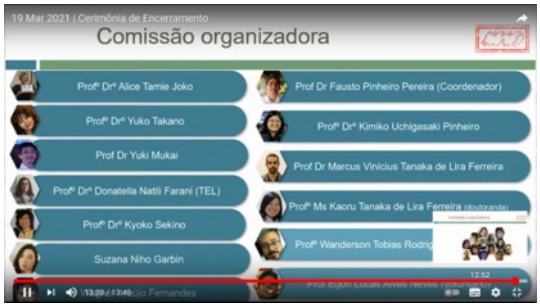
■プログラムから直接発表などの URL に入ることができるので、とても便利です。私と関先生が発表をしたセッションの URL は次のとおりです。https://www.youtube.com/watch?v=sQX-ZCKFGZA

■2 日後私達のセッションを視聴した人の人数は 170 人に達しました。セッションの 30 分前に発表者、司会者、パワーポイントの運営をする実行委員が集まって、パワーポイントの動作をもう一度確認して楽しい話をしました。司会者と 2 人の発表者は日本に、後一人の発表者はブラジルに、そして私はキルギスにいてちょっと不思議な感じでした。私の国の名前を聞かれて、「キルギス」と言うと参加者は「キルギス？」と言って、国の名前を初めて聞いたことが分かりました。その話のとき私は一つのポルトガル語の単語を覚えました。実行者の間の話はポルトガル語で、私は最初に発表をするはずだったので、その話の中で primeiro（最初）という言葉を聞き取りました。

■発表時間は 20 分でした。発表のとき YouTube のチャットに質問とコメントが届きました。質疑応答は 4 人の発表の後で 30 分でした。チャットからの質問は司会者の関野先生が発表順に聞かせてくださって、私たちは答えました。私にはブラジル、アメリカから質問とコメントが届きました。そしてセッションの発表者同士もお互いに質問ができて、楽しいディスカッションになりました。



■ブラジルの研究大会に参加して大変勉強になりました。素晴らしい実行委員会のおかげで理想的な研究大会だったと思います。そして閉会式のとき実行委員の向井先生は講演者、発表者、視聴者、さらに実行委員に感謝の言葉を言いました。実行委員の写真とお名前が公開されて、とてもいいと思いました。大会の実行委員会の仕事はとても多く、責任重大でしたから。ブラジルの皆様、心から感謝いたします。Obrigada!
また会いましょう！



～２０２１年キルギス共和国日本語弁論大会入賞者～

◆２０２１年４月４日（日）、キルギス共和国日本語教師会は、在キルギス共和国日本国大使館および国際交流基金との共催で ZOOM によるオンライン「キルギス国内日本語弁論大会」を開催しました。本年は初級部門（A 方式）及び中上級部門（B 方式）の発表となり、合計５機関１８名の出場がありました。

キルギス国内日本語弁論大会２０２１・A 方式入賞者

	氏名	テーマ	所属教育機関
１位	アクマタリエワ・アクジナット	オンライン授業	キルギス国立総合大学
２位	マムィトワ・アリヤ	私にインスピレーションをあたえてくれる人	ビシケク国立大学
３位	コジョベコワ・アデリ	インスピレーション	キルギス国立総合大学

キルギス国内日本語弁論大会２０２１・B 方式入賞者

	氏名	テーマ	所属教育機関
１位	バキット・クズ・アイペリ	観光業の希望	アラバエフ付属日本学院
２位	マラトワ・アイビィケー	善を信じるためには	ビシケク国立大学
３位	ガリャモワ・カリーナ	愛とは？	キルギス日本センター
４位	ケネシベコワ・シャフダル	大事なのは今ここに生きているということ	ビシケク国立大学
５位	アセコワ・アルトゥナイ	母親に重んじしろ	アラバエフ付属日本学院
６位	クシタール・アルーケ	一度きりの人生	キルギス国立総合大学

◆審査委員の方々に出場者の発表が高く評価され、昨年に比べると学生参加者の日本語力が向上したことを非常に感じられたと喜ばしいご感想やご意見をいただきました。最後に来年の弁論大会ビデオかとなしで実際に発表したら、弁論大会が効果的になるのではないかと期待や願いもありました。
◆入賞者にはそれぞれ複勝と賞状が、また、出場者全員が参加賞と参加証書が贈られました。日本で半年間の実習経験があるため B 方式１位アイペリさんには中央アジア大会参加資格がありません。キルギス代表として２位から５位までの入賞者４名が５月３０日開催予定の中央アジア日本語弁論大会に出場します。
◆今回も前田茂樹キルギス共和国駐箚日本国特命全権大使はじめ根本直幸 JICA キルギス共和国事務所所長ほか多くの皆様と以下の通りキルギス及び日本の関係各機関と企業のご協力をいただきました。

在キルギス共和国日本国大使館、
JICA キルギス共和国事務所、キルギス・日本ビジネス協議会、国際交流基金、
Unique Technologies、Japan Style、IBS 社、DMSolutions 社、深谷国際外国学院、
Kyrgyz Association of Tour Operations（KATO）、NHTabi Company、
オンライン日本語学校 KINAKO、MATSUNOKI、オシュ国立大学、
キルギス共和国日本人材開発センター
（敬称略）

本大会開催にあたってのご支援とご協力に深く感謝申し上げます。

キルギス国内日本語弁論大会 2021 実行委員
キルギス国立大学付属日本学院
タシタンベコワ・スルガ
イシライロワ・ジルディズ

初めての日本語弁論大会

アラバエフ名称キルギス国立大学付属日本学院
ホテルサービス学　４年
バキット　クズ　アイペリ
（キルギス共和国日本語弁論大会 2021 優勝者）

◆大学の１年生のとき、日本語弁論大会を見て、参加者に憧れました。私もいつか弁論大会に参加するように勇気が出たらいいなと思いました。それでとても緊張していました。　今年、キルギス国内弁論大会に初めて参加しました。もう半年ほど観光業について卒業論文のためにいろいろ研究しています。ですので、他のテーマで書くと時間がかかると思い「観光業の希望」というテーマを選び、作文を書きました。

◆私の卒業の論文のテーマは「日本の観光サービス業の発展の経験をキルギスの観光サービス業にいかすことができるか」です。日本もキルギスも観光業の発展のポテンシャルが高いです。それでこのテーマに惹かれました。

◆子供の頃から世界の国や文化が興味あり、ずっと旅行するのを夢見ていました。日本語弁論大会はキルギスで日本語を勉強している人にモチベーションや関心を持たせる素晴らしいイベントだと思います。参加者は日本語能力だけでなく、公衆の前で話す才能も見せることができます。各参加者に二つだけの質問をしていましたが、私はもっと質問をするといいなと思いました。何はともあれいい経験になりました、これからも日本語を頑張ります。弁論大会の主催者、共崔者、審査委員、実行委員会の先生方に心より感謝申し上げます。

Я впервые увидела конкурс ораторского искусства на японском языке, когда училась на первом курсе университета. Тогда я была восхищена выступлениями участников и задумалась, смогу ли я воспитать в себе смелость для участия в таком конкурсе.

И вот в этом году я впервые приняла участие в конкурсе. Темой выступления я выбрала туризм и звучит она так: «Надежды туризма». Тему я выбрала не случайно, а ввиду ее важности. Уже полгода я провожу исследования в области индустрии гостеприимства для своей дипломной работы по теме «Возможность использования опыта развития индустрии гостеприимства Японии в условиях Кыргызстана». И у Японии, и у Кыргызстана имеется большой потенциал развития индустрии туризма. Интерес к странам и культурам мира проявился у меня еще с детства, я всегда мечтала путешествовать. Пандемия коронавируса оказала влияние на все сферы нашей жизни, особенно пострадала индустрия гостеприимства. В своём выступлении я рассказала о современной ситуации в сфере туризма в Японии и Кыргызстане, а также о том, какие уникальные меры принимаются для поддержания этой сферы.

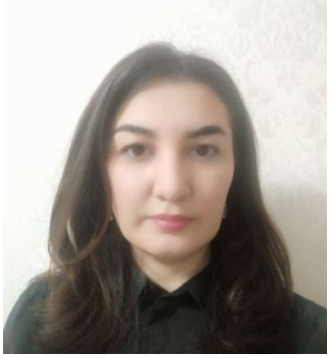
Я думаю, что конкурс ораторского искусства на японском языке является прекрасным мероприятием, которое повышает мотивацию и интерес студентов к изучению японского языка. Участники демонстрируют не только свой уровень знания языка, но и умение выступать перед публикой. Каждому участнику после выступления задают два вопроса, что мне показалось недостаточным. Было бы хорошо, если бы вопросов было немного больше.

Участие в конкурсе стало для меня ценным опытом. Я буду продолжать изучать японский язык. Выражаю искреннюю благодарность преподавателям, организаторам, спонсорам, судьям и участникам конкурса.

Бакыт кызы Айпери,
студентка 4-го курса Института японоведения КГУ им. И. Арабаева

2021 年キルギス共和国日本語弁論大会に参加して

ウズベキスタン日本語教師会　国内弁論大会実行委員
ラスレヴァ・イルミラ



■2021 年 4 月 4 日にキルギス共和国日本語教師会からのご招待でキルギスの国内日本語弁論大会に参加できましたこと、本当に嬉しく思っております。
■コロナウイルスの感染拡大を防ぐために今年の弁論大会は残念ながら、オンライン形式で開催されましたが、そのために中央アジア各国から教員が一人ずつ参加できたのは、「不幸中の幸い」であったと思います。キルギス教師会の皆様が弁論大会をスムーズに行うために多大な力を尽くされたことが強く感じられ、オフライン形式の長い経験をもとに、さらに今回はそれに、PC リテラシー、接続や時間の考慮などにおける合理的な考え方も加えられていたのではないかと思い、このような優れた運営ができることをうらやましく思いました。
■出場者の選んだテーマは幼いときからの人生、生きがい、人間らしさなど内容の深いものから、現代のコロナ禍でのオンライン授業や観光業への期待など現在の社会的課題を踏まえた発表まで幅が広く、学生たちが持っている視野の広さにすばらしいと思いました。学生たちの日本語知識、自分の考えや意見、感情を上手に伝える表現能力にも感動しました。また、学生たちへの適切な質疑応答や平等な審査においては、キルギスの日本語教育、日本語教師の皆様のレベルの高さを感じました。
■キルギスにおける日本語教育の更なる発展を心からお祈りしつつ、今回ご招待くださった主催者の皆様に心より感謝申し上げます。

＊＊

「みんなマスクで！」～賞状・参加賞授与式を終えて

駐キルギス日本国大使をお招きして
前田大使による講演会

アットクロワ・メーリバン
ビシケク国立大学東洋国際関係学部４年

◆3 月 24 日、ビシケク国立大学に駐キルギス共和国日本国特命全権大使をお招きし、記念講演をしていただきました。在キルギス共和国日本国大使館に協力していただく同様のイベントは毎年開催されてきましたが、COVID-19 の影響で、昨年は大学授業がすべてオンラインになっていたため、ずっと延期されていましたが、ようやく前田大使との交流が実現するとあって、大勢の学生が参加しました。

◆前田大使によるビシケク国立大学訪問記念講演では、現在の日本はどうやってできたのか、また日本では建国にあたっていかに教育を大切にしてきたかについて英語でプレゼンテーションしていただきました。とても興味深くて、考えさせられる内容でした。

◆大使の講演の後は Q&A セッションに入りました。参加した学生は希望者全員が前田大使に直接質問する機会を与えられ、私たちは貴重な時間を過ごすことができました。私は、日本がキルギスから輸入品を増やすために何が必要か、日本にはどのようなキルギス製品が求められているのか、などついて質問しました。

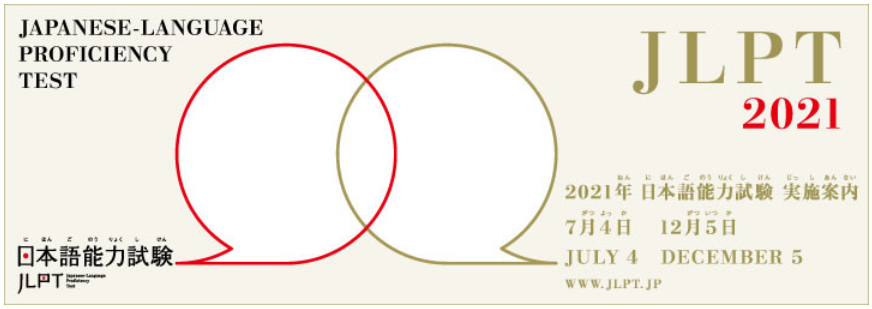
◆私は去年の夏まで日本に１年間留学していましたが、留学していたとき、キルギスから日本に輸入された商品を大好きな無印良品のお店で見つけたときは、とても嬉しかったです。

◆お店では二人の女子高生がフェルトのおもちゃを前に「キルギスで作られたんだって！キルギス？どこにあるんだろう？あとで調べよう」と話していました。日本の高校生がキルギスに興味を持ってくれたようで、私はキルギス人として嬉しく誇らしい気持ちになりました。こうしてお店に並んでいるマスコットたちが日本人にはあまり馴染みのないキルギスについて伝えてくれているんだと思いました。でも同時に、キルギスからの輸入品がとても少ないことに気づき、もっと増えてほしいと思いました。

◆そんなことがあったので、私は、この機会に大使にぜひその質問をしたいと思ったのです。

◆他の学生もたくさん質問しました。Q&A セッションは興味深かったです。イベントは最初から最後まで英語で行われたため、日本語を専攻していない学生も参加できました。

◆今年は大学を卒業する予定なので、今回のイベントにビシケク国立大学の学生として参加するのは最後になりましたが、このようなイベントは、これからもぜひ毎年開催してもらいたいと心から願っています。



日本語能力試験

2021 年第１回（7月）

会場：アラバエフ名称キルギス国立大学

実施日：７月４日（日）

「日本創生の原動力」

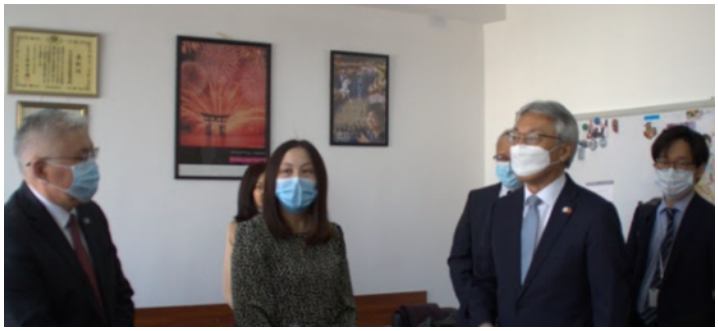
前田茂樹駐キルギス日本国大使ビシケク国立大学訪問講演

ジュヌシャリエワ　アセーリ
ビシケク国立大学日本語日本文学研究講座主任

■2021 年 3 月 24 日、駐キルギス日本国特命全権大使の前田茂樹氏がビシケク国立大学を訪問されました。

■前田大使はムサエフ学長と教育および科学分野におけるキルギス日本の両国関係がさらに拡大し強固なものとなるよう、特に、ビシケク国立大学と日本の諸大学や科学技術振興拠点との協力について意見交換を行いました。

■前田大使は、まず、東洋国際関係学部日本語日本文



学研究講座を視察、その後、本学キノザールにて教員および学生を前に「日本創生の原動力－諸外国の知見、教育価値の重視、独立精神」と題してご講演くださいました。

■レクチャーの最後、学生たちからの多くの質問に答えたのち、大使は「熱心に勉強を続けて将来キルギスのリーダーになるよう期待しています」と、参加した学生を激励してくださいました。

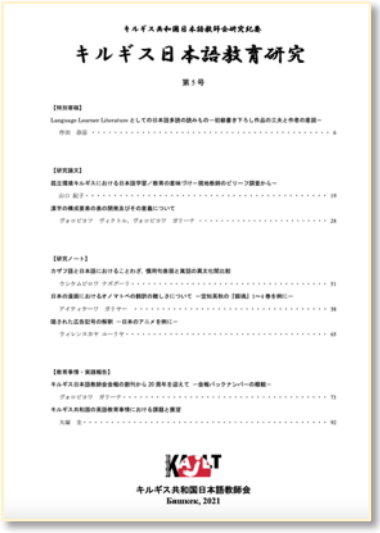
24 марта 2021 г. Чрезвычайный и Полномочный Посол Японии в Кыргызской Республике господин Маэда Сигэки посетил БГУ.

Ректор университета проф. А.И. Мусаев и Посол Японии обменялись мнениями по вопросам дальнейшего укрепления и расширения кыргызско-японских отношений в сфере образования и науки, в частности, о сотрудничестве БГУ с японскими университетами и центрами продвижения науки и технологий.

Господин Маэда Сигэки ознакомился с кафедрой японской филологии ФВМО. И в кинозале господин Посол выступил с гостевой лекцией на тему ≪Опыт зарубежных стран, ценность образования и дух самостоятельности - путь к созданию Японии≫.

В завершение гостевой лекции Посол, поблагодарив всех присутствующих за внимание, ответил на многочисленные вопросы студентов университета. Также Посол выразил надежду на то, что студенты, сидящие перед ним, будут прилежно учиться и станут лидерами своей страны.

＊＊＊＊＊＊＊



キルギス共和国日本語教師会紀要第５号発行

➢ 紀要の内容は、教師会ホームページの「紀要『キルギス日本語教育研究』バックナンバーをクリックすると、ご覧いただけます。
http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/

主な内容

◆特別寄稿：Language Learner Literature としての日本語多読の読みもの
—初級書き下ろし作品の工夫と作者の意図—　（作田 奈苗）

◆研究論文 ： 孤立環境キルギスにおける日本語学習／教育の意味づけ
－現地教師のビリーフ調査から　（山口 紀子）

◆教育事情・実践報告：キルギス日本語教師会会報の創刊から 20 周年を迎えて －会報バックナンバーの概観－（ヴォロビヨワ・ガリーナ）

ほか

掲 載 記 事

春のキルギス日本語教育セミナー2021 …… 1頁

講演「漢字指導・学習の方法–バリエーションはどのくらい？–」…… 2頁

報告：キルギス日本語教育セミナー2021 第１部 …… 3頁

キルギス日本語教育セミナー2021 に参加して①～③ …… 4～6頁

報告：キルギス日本語教育セミナー2021 第２部 …… 7頁

研究活動報告：外国の研究大会に参加して…… 8～9頁

2021 年キルギス共和国日本語弁論大会入賞者一覧 …… 10頁

優勝者感想：初めての日本語弁論大会 …… 11頁

写真：国内日本語弁論大会賞状授与式を終えて …… 12頁

駐キルギス共和国日本国特命全権大使講演会 …… 13～14頁

『キルギス日本語教育研究』第５号発行 …… 14頁

キルギス共和国日本語教師会会報 第 60 号（2021 年 5 月 22 日発行）

編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》

キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com
賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com
会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik
KAJLT HP http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com
ウィキペディア https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会
Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel
http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики № 60 от 22.05.2021 г.